

国有林職員の技術向上のための現地検討会

〇くり罠の技能向上のための現地検討会

- ・日 時 : 平成27年2月12日～13日
- ・場 所 : 森林技術・支援センター
宮崎森林管理署去川国有林内
- ・参加者 : 九州森林管理局
管内森林管理署等職員(約80名)

シカによるスギやヒノキの植栽箇所での食害や剥皮被害及び希少種等の下層植生への食害等を防止するため、各署等でくり罠(以下「罠」という。)を用いたシカ捕獲を行っている。

罠の設置に当たっては、誤作動等による危険回避や効率的に捕獲するため、様々な工夫や改良が各署等で進められている。

検討会では、各署等での改善点を実演し、参加者全員が共有することにより、安全確保対策の強化及び設置技術の向上が図られた。

【出され主な意見等】

- ・罠を立木等に固定する際、ワイヤーの切断防止対策として2回以上巻くことが重要である。
- ・罠の設置時に掘る穴から出る土や根は、匂いを感じられやすいので、罠から離れた場所へ移動させることが重要である。
- ・罠の踏み板は枯葉で隠し、大きな枝条等を周辺に置くことによる罠への誘導も重要である。

・シカが罠にかかった際、罠の部品が紛失することがあるので、各部品を連結させておくことである程度防げる。

・罠の設置箇所は獣道の十字路が効率的である。

・罠を設置するエリアについては、20基程度が設置できるエリアを数箇所設け、3～5日間で捕獲実績が無い場合、同一エリア内で設置箇所を小移動させ、10～20日程度で捕獲エリアを変更する大移動を行う「輪番移動式捕獲法」が有効的である。



笠松式くりわなの設置について説明する様子